1年間の主な行事日程

2017年	4月	5日	第53回入学式
		6日	新入生歓迎イベント
		7日	1年次オリエンテーション（～4/11）
		12日	前期授業開始
		14日	授業公開講座「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」（全30回）
	5月	20日	春期教養講座　「リスニング上達術」
	6月	3日	春期教養講座　「東南アジア諸国における日本企業の役割と今後の展開」
		17日	オープンキャンパス（第1回）
	7月	29日	オープンキャンパス（第2回）
		31日	前期授業終了
	8月	1日	前期試験開始（～8/7）
		8日	夏季休業開始（～9/22）
	9月	14日	授業公開講座「社会福祉論」（全16回）
		19日	学園創立記念日
		25日	後期授業開始
			授業公開講座「社会学」（全12回）
		30日	オープンキャンパス（第3回）
	10月	15日	大学祭（10/16大学祭振替休日）
	11月	18日	指定校推薦入試、一般推薦入試、専門学科・総合学科推薦入試〈A日程〉
			編入学試験〈A日程〉
			秋期教養講座「地域ブランドを売る」
	12月	2日	秋期教養講座「電気自動車の普及と課題」
		9日	本学主催業界研究会・就職懇談会（函館）
		25日	冬季休業開始（～1/10）
2018年	1月	10日	冬季休業終了
		11日	後期授業再開
		30日	後期授業終了
		31日	卒業論文提出締切
			後期試験開始（～2/6）
	2月	1日	試験入試、社会人入試・シニア入試、編入学試験〈B日程〉
	3月	1日	春季休業開始
		16日	第50回卒業式
		22日	試験入試〈B日程〉
		24日	オープンキャンパス（第4回）
		27日	2・3・4年次オリテンテーション（～29日）
		31日	春季休業終了

函館大学　図書館

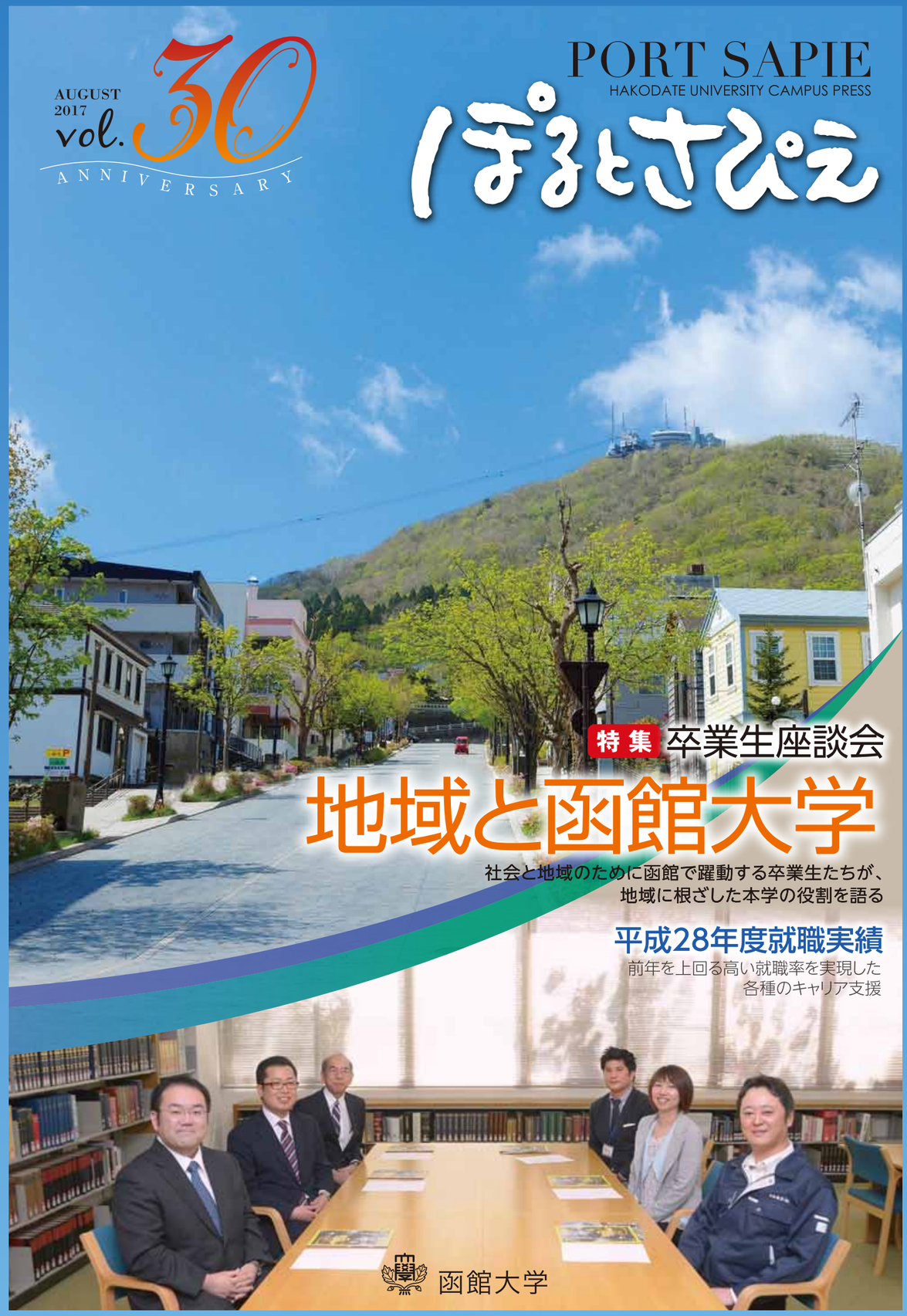
〒042-0955 函館市高丘町51番1号　TEL(0138)57-1181　FAX(0138)59-4575

URL　http://webopac.hakodate-u.ac.jp

ぽるとさぴえバックナンバー 函館大学 学術情報リポジトリ・函館大学広報誌

URL　https://hakodate-u.repo.nii.ac.jp

ぽるとさぴえ　2017.August Vol.30　函館大学広報誌VOl・30　発行／函館大学図書館



学長メッセージ

チャンスをつかむ、これを本学で経験してください。

学長　野又　淳司

私には、教育を通じて学生に伝えたいことがあります。それは、これから学生の皆さんが活躍する社会は、絶対に面白く、チャンスにあふれているということです。

インターネットをはじめとする技術革新により、物事をグローバルにとらえるのが当たり前になりつつあります。商学はもともと諸外国との貿易や経済競争を意識したものであります。学問の源流をしっかりと踏まえた上で、これからの商学はますますダイナミックなものに発展していくでしょう。

近代経済学を学問的基盤として形成されてきた資本主義社会は、経済発展とともに成熟し、名目的な経済成長の鈍化によって、我が国を代表例とする少子化や高齢化、欧米で見られる経済格差などの国民の社会的分断をもたらしています。そして世界各国は程度の差こそあれグローバル化を志向しています。これからの社会は、生まれた国や、家庭状況によるハンデが小さくなります。努力して身に付けた専門知識やスキルが、確実に役に立つ時代なのです。

「幸運は準備をした人にだけ訪れる」という名言があります。チャンスをつかみ取ろうと思っている人は、準備をすることを苦にしません。自分が今よりも成長し飛躍する姿を想像し、そこに到達することを確信して、日々の勉強を怠らないものです。

本学の学生にはチャンスをつかむことを本学で経験し、そして習慣にしてほしいと思っています。ですので、本学では学生が行動力を発揮できるよう、様々な取り組みをしています。

本学では地域社会の課題を国際的視野で研究する活動に対して金銭的支援を行っています。海外姉妹校のサマースクールへの派遣、アジアマーケティング研修など海外への派遣もその一例です。このような課題を学生が主体的に設定できるよう、大学の費用負担で1年生全員に新聞を購読させ、授業でも記事を批判的に読み解く指導をしています。今年度に着任された新任の先生も国際性豊かですので、アジアに限らず、ヨーロッパやアメリカも視野に入れて、地域の課題を国際的なスケールで考えてほしいと思っています。

私は立場上、人を評価することが多いのですが、その中でも「行動力」という面を重視しています。企業の採用面接においても、「学生時代に何をしたか」「困難な状況であなたはどう行動したか」など、行動力を問う質問が多いのは、学力がバランスよく身についているかを見極めるためだと私は考えます。文部科学省が示す「学力の3要素」を簡単にまとめると、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体的な学習態度、です。この3つの要素が満たされると、わかりやすく具体的な「行動」が見られるようになります。これからの大学生に求められるのは、知識だけではなく、知識を前提とした具体的な行動なのです。

そのため、本学では学習の第一段階として知識・技能の習得を重視しています。学生に知識・技能を確実に身につけてもらうため、いくつかの施策を予定しています。英語はTOEIC試験の全員受験、読解力・専門知識・表現力を測る各学年の必修課題、リテラシー・コンピテンシーを測る卒業時点でのアセスメントなどを通じて、行動力の基盤となる知識・技能の向上を目指しています。

自分が成長したなと実感できる「達成感」をもたらすことが私たちの使命ですので、学生諸君とともに社会から評価される大学を目指して努力してまいります。

PRESIDENT MESSAGE

ぽるとさぴえ Vol.30 2017.August

「ぽるとさぴえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサピエンティス（知恵や英知を意味します）を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香りを漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。

CONTENTS

●学長メッセージ（学長 野又 淳司）……1
●副学長インタビュー（副学長 永盛 恒男）……3
●新任教員&職員紹介……4
●特集　卒業生座談会『地域と函館大学』……5
●就職部
平成28年度就職実績……9
がんばる社会人一年生・インターンシップ体験……10
●教育&オープンキャンパス……11
●出身校紹介
北から南から……12
●FROM THE WORLD
日本語や専攻科目を学ぶため、中国・南開大学浜海学院から函大へ留学……15
●KANDAI ing CLUB TOPICS
すべてが揃わなければ、うまくプレーできないところが魅力
ハンドボール部……17
言葉でうまく伝える力で、周りの人に差をつけよう
弁論部……17
周りの支えに感謝しながら、頑張って恩返しを
硬式野球部……18
文武両道を目指し、人間性も育む
軟式庭球部……18
●Campus Report
春季派遣留学……19
アジアマーケティング研修会……19
海洋観光大学東日本教育旅行研究大会……20
新聞記事の活用授業実施……20
平成29年度の公開講座……21
平成28年度 学校法人野又学園 決算書……21
●授業アラカルト
『流通論』専任講師 角田 美知江 先生……22

副学長インタビュー

今年度より「副学長」に就任した永盛教授に役割、抱負などを伺いました。

副学長を引き受けた背景とは?

本学の学長は理事長兼学長であり、さらに専門学校の校長も務めており、とても多忙。そこで少しでもお手伝いができればと思い、お話があった時に「私でよければ」とお引き受けしました。学長は非常に優秀でアイデアがたくさんある人です。これまで一緒に仕事をしてきましたが、教育に対する考え方、教育の基本哲学が非常に近いと感じています。「これが教育によい」と思ったことを学長とよく相談の上、実行していくことが副学長の使命だと思っています。

学生にとっての本学はどうありたいと考えていますか?

私たちはメーカー企業のように製品を作っているわけではありません。人を創っているわけです。卒業生の幸せを願うのであれば、私たちの教育には責任があることを自覚しなければなりません。社会で評価され、幸せな人生を歩んでいる卒業生諸君から、「あの大学で学び、出会った人々のおかげ」と思われるようにしたい。卒業した大学を誇りに思い、自分の子どもたちに「あの大学へ行かせたい」と思ってもらえることが大学の究極の目標です。

そんな大学となるためには何が大切でしょうか?

本学は教員だけではなく職員も学生のみなさんの名前を覚えており、一人ひとりとコミュニケーションをとっています。ですから、教員と職員が共通の認識で話ができ、一緒になって指導に当たることで学問はもちろん、人間性の教育も行っています。これが本学の素晴らしいところだと自負しています。また授業においても、難しいことを難しく言い、あとは学生が勉強するという時代ではありません。本学では2年前から教員同士でお互いの授業を観察し、指摘や指導をすることで大学教育の水準を保ちながらも、分かりやすい授業を行うための取り組みを行っています。とにもかくにも学生第一です。

最後に副学長としての意気込み、抱負をお聞かせください。

変な意気込みを持っていると空回りしますから、それだけは気をつけたいですね(笑)。ですから、気負わず、淡々と冷静にやるべきことをやっていくだけです。信念として持っているのは、教育に責任を持った大学であり続けること。もしも駄目だと思った時は目を背けずにしっかりと反省して、次の道を探していく。教職員が一丸となり、これから入学してくる高校生、在学生、そして卒業生や御父母に対して責任を持って運営していくために、少しでも力を発揮できれば嬉しいと考えています。

副学長　永盛　恒男 教授

INTERVIEW

今年度から函館大学に赴任された教員と職員のみなさん。
学生たちとどのように向き合いながら、どんな出会いを生み出してくれるのでしょうか?

新任教員&職員紹介

西前　明 専任講師

学生の記憶に残る授業をしたい

九州男児で壮快なイメージの西前先生は、大学で出会った英文法の先生に憧れ、大学教員や研究者になりたいと思ったそうです。専門は英文法で、英文法や英語学、教員を目指す学生が受講する英語科教育法などを教えています。そんな先生は、「教員がその場で思いついて話した言葉は、意外に学生の記憶に残るんです。ですから、実は準備をしていながらも、アドリブに見せるテクニックを使っています」と、こっそり教えてくれました。

藤原　凛 専任講師

教育の魅力は無限の可能性を秘めたところ

藤原先生の専攻は刑事法。法律分野では商法、知的財産論などを教え、商学実習や専門ゼミナールも担当しています。子どもの頃から海外を渡り歩いてきた先生は、とてもポジティブ志向です。「教育とはゼロからスタートして、100にも1,000にも持っていくことができます。成長が目に見えて分かるので楽しい」とニッコリ。社会へ出て使えることを教えていきたいと話す先生は、休日は函館へ来てから始めた乗馬でリフレッシュし、今日も教壇に立っています。

ジョセフ・ディレンシュナイダー 教授

コミュニケーションを図り、信頼される先生に

ギターや読書、ツーリングなど、多彩な趣味を持つジョセフ先生は、函館の印象を「海産物は美味しいし、人々はフレンドリー」と話します。最初に日本へ来たのは、大学院の先輩に「日本の姉妹校の付属高校へ行き、英語を教えなさい」と命令されたからだそう。先生のポリシーは、「良い教育方法を作るために、教員は最初、生徒にならなければいけない」ということ。学生たちと積極的にコミュニケーションを図り、趣味・興味・関心などの情報を集めながら信頼を築き上げています。

入試課

ミルナー 映子さん

学生の輝きをバックアップしたい

英国から宮城県、そして実家がある函館へと戻ってきたミルナーさん。ハローワークで働いていた経験を生かしたいと思い、本学の入試課で働き始めました。情報発信や学生の受け入れに関わる広報・営業活動を行いながら、「個人個人に存在価値があり、それぞれが持つ力ってすごいと信じています。学生たちが輝いて卒業できるようバックアップしていきたい」と、目を輝かせて語ってくれました。

学務課

八重樫 淑恵さん

常にアンテナを立て、一歩踏み込む

函館大学付属有斗高等学校の英語教諭だった八重樫さんは、本学が国際化への対応に力を入れる中で語学力(英語)が重要となることから、白羽の矢が立ちました。国際交流担当として対外的なやりとりや留学生への対応を中心業務としながら、「学生たちが困る前にこちらが察知して、手を差し伸べたり声を掛けたりしていきたい」と、今日も正門に立ち、明るい笑顔で学生を迎えています。

保健室

水山 理恵さん

相談ができる一つの窓口にしていきたい

看護師として医療機関や福祉施設に勤務していた水山さんは、キャリアアップを目指して本学へやって来ました。傷病者や体調不良を訴える学生の応急手当のほか、定期検診を通して学生の健康状態を把握します。「健康に関わることだけでなく、教育機関で働く人間、さらには人生の先輩として困ったことや悩みがある人に頼ってもらえる存在になりたいです」と、抱負を語ってくれました。

『ぽるとさぴえ』創刊30号記念 特集

HAKODATE UNIVERSITY

卒業生座談会
『地域と函館大学』

本学は開学から今年で52年目を迎え、
これまで多くの卒業生を社会へ送り出してきました。
そして、数多くの卒業生がこの函館で地域のために頑張っています。
今回はそんな卒業生たちと教員に集まっていただき、
学生時代のこと、仕事のこと、
そして地域のことなどを語り合っていただきました。

座談会コーディネーター 高橋 和将

高橋さん「本日はみなさんお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。初対面の方もいらっしゃると思いますので、まずは簡単に自己紹介をしていきましょうか。私は28回生になるのですが、御当地キャラなどの商品開発や販売を行う会社を経営しています。また、若松先生から『商品開発をしているなら、学校に来て手伝いなさい』と言われ、学生たちの商品開発や商学実習などをお手伝いする地域連携コーディネーターという本学職員としての仕事もしているんです」

若松先生「本学では現在、国際化へ対応した取り組みに力を入れていて、そちらの分野でも活躍してもらっているよな」

高橋さん「そうですね。人間性の成長や国際社会で通用する人材の育成を目的としたプログラムのコーディネーター的な役割もやらせてもらっています。国際化と言えば、島香さんの仕事ですよね」

島香 奈未 さん

島香さん「私は2010年に本学を卒業し、2013年からHIFに勤務しています。私たちの活動は、元々ホームステイから始まりましたが、現在は国際交流、人材育成/自立支援、そして情報発信の3本柱で活動しており、私は全体の業務がうまく動いているかチェックしたり、総務的な業務を行うことが多いですね」

高橋さん「英語は以前から得意だったのですか?」

島香さん「大学3年の時に英検は準1級を取って、TOEICも905点取ったかな（笑）」

一同「おおー」

高橋さん「次の人が話しづらくなってきましたね（笑）。それでは中山さん」

中山さん「本当ですよ（笑）。私は33回生になるのですが、家業の会社を継ぎ、空調関係の仕事をしています 。また、函館青年会議所に所属しております。そのきっかけは函大の同窓会で当時の会長だった方から紹介され、横のつながりを持つことは大事だと思って入りました。これまで地域活性化や人材育成、青少年事業などに取り組んできましたね」

高橋さん「まさに地域貢献ですね」

野口さん「私は中山さんと同い年ですので、卒業は同じはず。当時はちょうど就職氷河期で、家業は油関係の仕事をしているのですが、他のところで飯を食えと言われて（笑）。それでドラッグストアで5年ほど働き、その後は家業に従事しています」

嘉堂さん「私の会社は食料品の製造業です。お惣菜やお菓子などを作っております。今回、スイーツに関わる大学のプログラムでお手伝いさせて頂きました。中山さんや野口さんとは同級生だと思うんですが、年は私がひとつ上かな?高校が一年多い人間なので（笑）」

高橋さん「大体みなさん同じくらいの年齢になるのかな?嘉堂さんには学生の研究に協力いただき、本当にありがとうございました。最後に若松先生、大学の近況など教えてくださいよ」

若松先生「私はもう30年目になるかな?最近の話だと退職された先生もいるし、定年を迎えたけど継続されている先生もいる。今年は新任の先生も多く入ってきたね。語学バリバリの先生方が。国際化への取り組みを着実に進めているよ」

来函者に向けたおもてなし面での取り組みが必要

高橋さん「みなさんは函館で頑張っていらっしゃるのですが、函館と言えば観光都市。昨年、北海道新幹線が開業しましたが、何か感じていることはありますか?」

嘉堂さん「来函者は増えましたが、需要増にはあまりつながってはいないというのが実感ですかね。多少の上積みはあったけど、今はリバウンドが起きてるんじゃないかなと思う」

高橋さん「他の食品メーカーさんも同様ですかね?」

嘉堂さん「そうだと思いますね。例えば、ホテルなどは受け入れ体制が間に合わないくらい人が来ているようですけど、“消費”となると話は別」

高橋さん「外国人観光客への対応面はどうなんでしょうかね。その辺りの対策についてHIFさんは?」

島香さん「最近はインバウンドの依頼が多いですね。例えば函館にはクルーズ船が入るのでその関係や、函館朝市さんからは、インバウンド向けの免税カウンター設置のお話がきて、私たちスタッフがそこで免税の手続きや観光案内などを行っています」

高橋さん「他の業界はどうでしょうか?」

野口さん「ウチはホテル様にも油を供給していますから、間接

的に関わりはあるのですが、あまり影響は感じませんね。ただ、会社が末広町なので、人通りが増えたかなという実感はありますけど」

高橋さん「函館JC(青年会議所)さんはどうですか?活動に変化とかはありますか?」

嘉堂さん「北海道新幹線開業前に、地域住民に向けたイベントなどはやってきたのですが、正直なところ、あまり関心がないようなムードでしたね。視察で金沢に行ったんですけど、向こうは盛り上がり方が違いましたよ」

野口 純平 さん

島香さん「でも、観光客が来る施設はおもてなし面での取り組みはしてましたね。函館朝市さんは他国語の呼びかけのフレーズを教えてほしいとか、五稜郭タワーさんでは座学や実践もやりました」

若松先生「実際にお客さんが来るところは“必要だ”という意識が強いからね。片言であっても使おうと」

島香さん「台湾などでは、みなさん日本語で接客してきますからね」

実践型のカリキュラムで課題解決

高橋さん「外国人への対応だけでなく、日本から海外へ進出するようになってきた現代では、今後、国際化へ向けた取り組みが益々必要になってくる。また、最近は“課題解決”というキーワードを良く聞くのですが、本学でもその取り組みには力を入れているんですよ。海外へ行って市場調査をするアジアマーケティングというプログラムでは、選ばれた学生の費用を大学が負担しています」

若松先生「課題解決で言うと、地域の企業さんや団体さんなどの協力をいただいて、実践型のカリキュラムも行っている」

高橋さん「企業様にとってみれば、自分たちでコストをかけずに分析ができ、学生にとっては学びになるし、地域貢献もできる」

中山 治 さん

中山さん「僕らがいた頃とは中身が違いますね」

高橋さん「みなさんの中には経営される立場の方が多いですが、今の若い子たちはどうですか?」

中山さん「職種にもよりますけど、建設業などはすぐ辞めるというのを目にしますね」

若松先生「ゆとり世代というのが未だに息づいているのかな」

高橋さん「ゆとり世代が今はさとり世代と言われていますよ」

一同「はははは」

一度外へ出て、その経験を地元に還元

高橋さん「大学で学ぶことによって知識と経験を得ていくわけですけど、それを生かせる場所がここにあるかどうかも大事なこと。ないから函館を離れて首都圏へ行くという若者が多いけど、みなさんは今、この函館で活躍されているわけですが、何故残られたのですか?」

中山さん「実は香粧品などの香料を調合する調香師になりたかったので、大学3年生くらいの時から東京に住みながら活動していたんです。しかし、母の病気がきっかけで函館へ戻り、結局は家業を継いだわけですけど、目的を持って行動できたことは、今振り返っても良かったと思っています」

野口さん「私は最初、東北各県に行っていたのですが、これといった志はなく、自由気ままにやりたいなと思って。でも、一度外へ出ることによって函館の良いところも見えてきたし、今、会社を経営する上で必要なことも学べた。函館は良いところがたくさんある。それを多くの人にも知ってもらいたいし、地域を盛り上げたいという思いからJCにも入ったんです」

嘉堂さん「私も同じく一度函館を出ているんですよ。都心のレストランチェーンで働いていたのですが、挫折を経験して帰ってきました。でも、そのおかげで地元にある問題点が見えてきた。解決できれば良くなるし、みんなで取り組んでいけばいいと思っていた時にJCと出合って、同じ志を持った方々と活動させてもらっています。学生たちには一度出て、修業をして戻ってきてほしいと言いたいですね。寄り道することで得ることもたくさんありますから」

嘉堂 聖也 さん

高橋さん「寄り道することで得ることもある、か。私、明日からそのフレーズを自分の言葉として学生たちに使わせてもらいますよ(笑)」

島香さん「私はボランティアをやっていたこともあり、みんなと離れたくなかったので本当は函館に残りたかったんです。でも、内定をいただいたのが本州の外食産業の企業で。だから数年修業をして戻ってこようと。で、戻ってきてから学校法人で営業をやっていたのですが、今の職場の求人を見つけ、私が大学生の時にボランティアをしていたことを今の上司が知っていてくれたことも縁で。大学の時にいろんなことをやってきたことが、今につながっているなと思いますね」

中山さん「函館をこよなく愛する人なんですね。勉強になります」

嘉堂さん「学生の時からそういう活動をやっていると、我々とは着地点が違いますね」

高橋さん「全然違うよ。愛の度合いがね」

中山さん「そうそう、根っこにあるものが(笑)」

地域と函館大学が共存しながら盛り上げを

高橋さん「いろいろと話は尽きませんが、そろそろ締めに向かってよろしいですか?函館大学で学んで良かったと思うこと、後輩へのメッセージなどをもらえたら」

若松先生「学びと言えば勉強になっちゃうけど、それだけではない話もぜひ聞かせてよ」

野口さん「私はビリヤード部に入っていたんですけど、練習しているといろんな人が声を掛けてくれるんです。そのおかげで幅広い年齢層の方と知り合うことができましたし、同じ学生でも出身地がバラバラだから、コミュニケーションをとっていく中でいろんな見方ができるようになりました。学業の面では、もっと会計を勉強しておけば良かったと後悔しています。だから今の学生たちには、後悔をしないように過ごしてほしいと思いますね」

若松 裕之 教授

嘉堂さん「私なんかは全力で遊んでいましたけどね」

高橋さん「我々世代はそうですよね」

嘉堂さん「目的も持たず、全力で遊んでいましたが、そのおかげ

で知り合った仲間もいます。また、地元の学校にいたからこそ、卒業してから生かされたこともあると思っています。仕事を始めてから、いろんな協力を得ようと思って出会った人が先輩だったり、ここは地域密着の大学だからこそ、横のつながりが広いことを改めて感じさせてもらいました。そして、勉強って社会へ出てからもできる。とにかく、すべてのことに全力で向かっていってもらいたいですね。そこから見つけられる道もあると思うから」

島香さん「チャンスがあって、自分がやりたいと思うことがあったら、大学生のうちにチャレンジしたほうがいいですよね。私の今の仕事も、大学時代のボランティアからつながっていますから。それと、学生時代の友人とは一緒に旅行をしたり、今でもつながっているのですが、それも大学に通っていたおかげです」

中山さん「大学生活だからこそ、いや、大学生活でなければできないことってありますからね。同窓会などで函館で頑張っていらっしゃる先輩方のお話にふれる機会があったおかげで、今の自分があると思っています。一生懸命な時間を送って、卒業してからもつながりを大事にしていけば、成長につながっていくと思いますよ」

高橋さん「今回のテーマの話にもなりますが、地域と函館大学でうまく共存して盛り上げていけたらいいですよね。それでは、先生からも一言いただけますか?」

高橋 和将 さん

若松先生「卒業生のみなさんが地域を深く愛し、活躍していることをあらためて知ることができてとても嬉しかったです。函館大学で学んでいる学生がみなさんの姿を見て、自分たちも地域に貢献するぞという意気込みを持ってもらえると、学修に一層熱が入るのではないかと思います。これからも、ときどき大学に来て、学生にも今日のような話を聞かせてください」

一同「はい」

就職部 CAREER SUPPORT

平成28年度就職実績

前年を上回る高い就職率を実現した各種のキャリア支援

就職部長
今井 敏博 教授

平成28年度から経団連の指針による新制度も2年目となります。企業側の求人意欲は、景気回復の背景や社会全体の人手不足感もあり、今年度も非常に高まっています。しかし、採用意欲は高くても「良い人材だけを採りたい」という状況は変わりません。そのような中で、本学の就職実績は前年を上回る98.9%という高い数字を達成することができました。

また、企業の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。そのため大学では、その傾向に対応できる学生を育てていくことが求められております。そこで本学では、就職に向けた様々なキャリア支援を展開しています。

一つ目は、学生への「実践教育」です。11月に企業の人事担当者を招いた「就職模擬面接研修会」を実施し、採用のポイントや受け答えの仕方、面接指導を含めて就職活動に役立つ具体的な実践教育を一日かけて行っています。

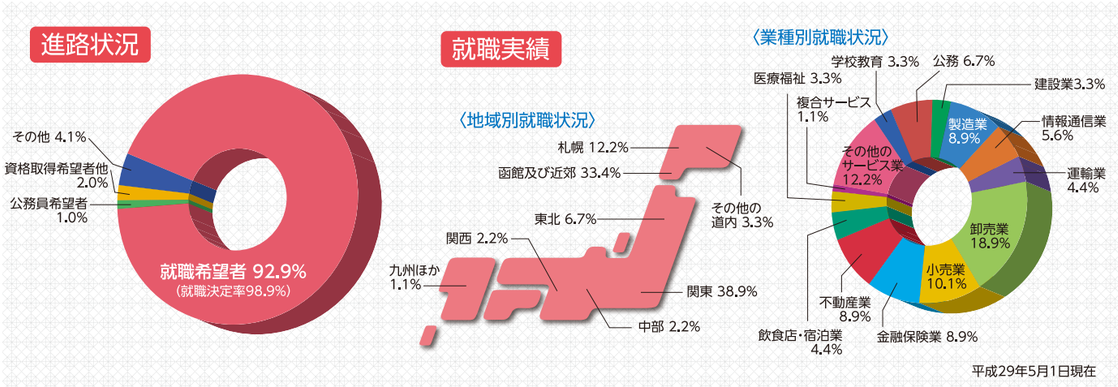
二つ目は「学生へ向けての報告会」です。就職担当教職員が、年間約100社の企業訪問を行い、収集した情報をガイダンスの中で報告することで学生の就職活動を展開しやすくしております。

三つ目が「就職講座」の開催です。1年次には「キャリアプランニング」(15回)、2年次は「キャリアガイダンス」(15回)、3年次には「就職ガイダンス」(16回)を実施しております。その中には、企業の経営幹部の方を招き「仕事とは?働くとは?」等の講演会も実施しています。

さらに例年12月に開催している「業界研究会」では、60社以上の企業の人事担当者に来ていただき、学生が直接担当者に業界や事業内容などの話を聞く有意義な場も設けています。

また、ゼミの担当教員が、学生一人ひとりに対してきめ細かい就職支援を行っているほか、キャリアスタッフによる面接指導、履歴書・エントリーシートの書き方指導なども随時行っています。

キャリア開発課では、就職に関する資料の収集、開示、就職相談を行っており、学生がキャリア・デザインを早期から描くことができるような親身な指導・助言を行っています。



がんばる社会人一年生

今春から新社会人として新たな一歩を踏み出した先輩たち。
自身が希望した舞台に立ち、新たなフィールドで活躍しています。

楽しむ方法を見つけてください

(株)ウイル・コーポレーション勤務
宮永 優太郎 さん
商学部商学科市場創造コース卒
(函館西高等学校出身)

印刷業界について全くの素人だった自分が、この会社に入社を決めた理由は、大学で身に付いた、自分のアイデア発想力や行動力を試すことができると思ったからです。研修での勉強や仕事の見積りを作成するのは本当に大変で、毎日頭をフル回転させています。ですが、「あんなことやこんなことをやってみたい」というアイデアもどんどん頭の中で湧き上がってきていて、結果、毎日が楽しくてしょうがないです。

皆さんも将来仕事に就くと思いますが、仕事とは本当に大変です。でも、そんな時こそ、楽しむという気持ちが大切だと思います。どんな事も自分が楽しくなければ、成功もしないし、継続できません。ぜひ函館大学で色んなことにチャレンジし、自分にしかない、物事を楽しむための方法を学生生活で見つけてみてください。応援しています。

先を見据え、納得のいく選択を

(株)商工組合中央金庫勤務
坂本 郁香 さん
商学部商学科市場創造コース卒
(市立函館高等学校出身)

16年間の学生生活を終え、私はいま社会人という新しいステージに立っています。「会社はチームである。会社は部活ではない」。これは上司が何気なく口にした言葉です。新人の私は助けられてばかりですが、困っている人がいたら助ける、そんな当たり前のことを当たり前にできる人間でありたいです。

就職活動では「何のために働くのか」を自分に問い続けました。就職活動は自分の知らない自分の考えに気づいたり、整理したりできる非常に良い機会であったと思っています。これから就職を控えた後輩の皆さんには、会社に入ることを目的とせずに、その先の人生を見据えて納得のいく選択ができるよう願っています。

学生に戻りたいと愚痴をこぼすこともありますが、今が一番楽しいと言える人生を送りたいです。

INTERNSHIP インターンシップ体験

自身の視野を広げ
就活への大きな一歩に

商学部商学科
企業経営コース3年
土谷 優茄 さん
(函館大学付属柏稜高等学校出身)

商学部商学科
英語国際コース3年
高田 彩乃 さん
(北海道江差高等学校出身)

教育実習に向けて、とても勉強になりました

私は平成28年8月に北海道教員志願者養成セミナーに参加させていただきました。養成セミナーでは、基本講座で具体的な教師の仕事についてや、北海道の教員を目指す私たちに期待されていることなどを1回目の講座で学びました。

その後、8月下旬に北海道函館中部高等学校へインターンシップに行き、生徒と一緒に授業を受け、先生の授業の進め方や生徒の様子を直接見ることができ、来年の教育実習に向けてとても勉強になりました。

また、私は商業科の教員を目指しているのですが、中部高等学校の現役で働いている商業の先生から、商業教員の実態や具体的に先生になるために何をすればいいのかを聞くことができました。このセミナーに参加して教員を目指すうえで今すべきことが明確になり、専門教科の資格取得に向けて意欲が高まりました。

体験することで課題も見える

私は教育実習の前段階として実際の教育現場を見てみたい、「子どもたちとのふれあい」という大学ではできない事をしたいと思い教員志望セミナーに参加しました。内容としては講習が2回と学校体験が3日間の全部で5日間でした。

特に印象に残ったことは学校体験です。私は教育大学の付属中学校へ行ったのですが、実際にクラスに配属され給食を一緒に食べたり、掃除ができたので、生徒たちの雰囲気を知ることができました。授業見学では机間巡視や授業のポイントを教えていただいたことで、今後の講義でも活かせそうでした。またセミナー生だけの講義や、ちょうど教育実習期間でもあったので実習生ともお話しすることができ、教師になるためにすべきことが見えてきました。講習は学校体験の事前と事後にあり、教員採用試験の話などもされていたので、今後の計画も見えてくるのではないかと思います。

私はこの体験を通じて教師をより一層目指したいと思ったのと同時に、課題が明確になりました。もし教師を目指しているのであれば、この体験は絶対にためになると思います。ぜひ参加してみてください。

教育&オープンキャンパス

海外研修支援も充実させ、高い就職実績

入試部長 田中 浩司 教授

本学の最大の特長は、独自の教育システムと、学生による調査・研究やキャリアプランなどを、さまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。

本学は、早くからアクティブラーニングという能動的な学修を促す手法を採用し、大手進学予備校河合塾による調査でも高評価を得た実績をもっております（『日本経済新聞』2011/2/21）。この手法による「商学実習I・II」（1・2年次）などでは、学生による地域研究をはじめ、企業とのコラボによる商品や観光プランの開発などのプロジェクトの成果が、新聞やテレビニュースなどで数多く取り上げられ、高い評価をいただいております。

本学創立50周年（2015年）を機に、従来の長期・短期の海外留学のほかに、短期海外研修旅行を再開するとともに、新規に立ち上げた、アジア・マーケティング研修会や学術連携協定を結んだ長榮大学（台湾）との共同調査といった海外研修の費用を助成する制度を設けるなど、海外で学ぼうとする学生に対する支援も一段と充実したものにしました。

本学は、従来から就職に強い大学という評価をいただいてまいりましたが、『週刊ダイヤモンド』（2011/12/1）の特集号「就職に強い大学ランキング」で、道内限定で第3位、道内私大ではトップ（全国総合98位）となり、本学の就職実績の高さはお墨付きをいただくことになりました。本学の就職の強さは、一般的な就職内定率（98.9%）はもとより、就職内定者+進学者／卒業者数、という実就職内定率（91.8%）の高さに表れていると思っております。

このように、本学のすぐれた教育システムと高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。

本学の最新情報を聞くことができるオープンキャンパス

今年度は、本学主催の受験生向けのイベントとして、オープンキャンパスを4回〈6/17(土)、7/29(土)、9/30(土)、3/24(土)〉開催します。

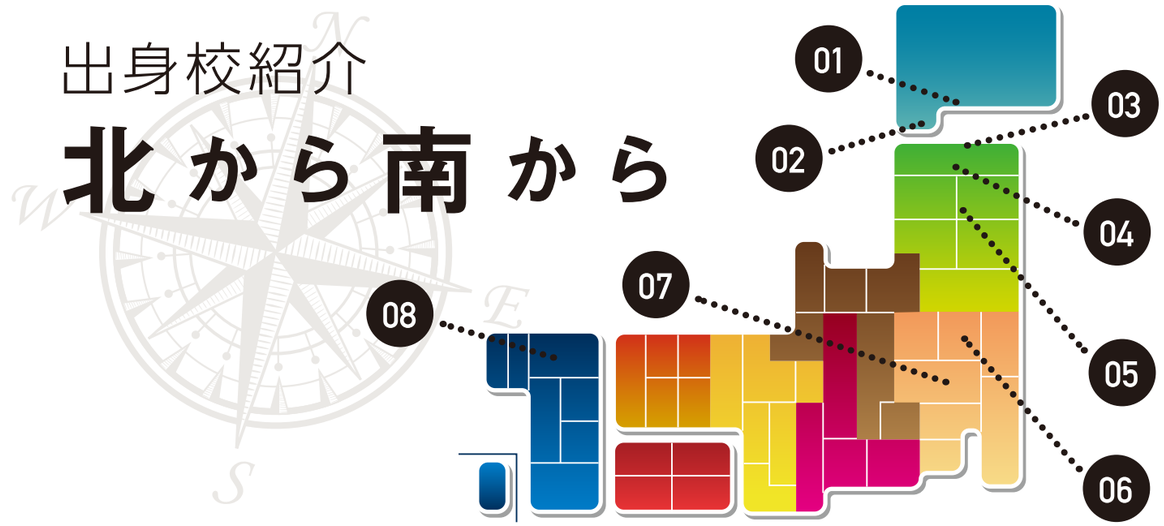
オープンキャンパスでは、本学の教育内容や各種入試制度、就職支援の特色、学費・奨学金の説明、商学系・英語系・一般教養系に分かれたミニ講義、キャンパス見学などのプログラムがあり、本学の最新情報を聞くことができます。当日は在学生がキャンパススタッフとして、受験生の皆さんをご案内しますので、本学の生の情報を気軽に聞くことができます。このほか、ご希望の方には、当日学食で昼食を楽しんでもらう「無料ランチ体験」もあります。なお、当日は函館駅前から無料送迎バスもご利用いただけます。当日同伴された保護者の皆様には、受験生の皆さんとは別に、実際の時間割・学年暦からみた4年間の大学生活のイメージ、学費のことなどについて情報提供をいたします。個別相談にも対応しますので、お気軽に担当者にお声がけください。

こうした本学主催のオープンキャンパスなどに都合がつかない方には、函館市、青森県、岩手県などの各都市で開催されている業者主催の進学相談会に本学も参加しておりますので、お近くの会場にお越しいただければと思います。会場・日時などの詳細は、本学HPをご覧いただくか、本学入試課に電話でお尋ねください。これらの機会以外にも、キャンパス見学なども受け付けておりますので、お気軽に入試課までお問い合わせください。

試験科目の変更のお知らせです。2018年4月入学生向けの特別奨学生選抜（11月実施）と試験入試（2月実施）の試験科目が、国語、英語、簿記、数学（これらから2科目選択）となります。日本史Bと政治・経済では受験できなくなりますので、ご注意ください。

じっくりと本学のことを聞いて、自分の眼でたしかめて、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと充実した学生サポート。本学で思う存分に、学修・研究に、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。

出身校紹介 北から南から



01 北海道 室蘭東翔高等学校

私の卒業した室蘭東翔高校は、昨年開校10周年を迎えた胆振管内初の総合学科の高校です。特色ある授業が多く、一人ひとりに合ったスタイルで学ぶことができます。また入学後、生徒全員が自分のライフプランを作り、お互いに発表しあう「総学」という授業があり、1年生のころから将来について真剣に考えることができます。

「至誠・日々新」純粋な真心をもち誠実に行動し、生き生きと明るい気持ちで毎日を生きるという校訓を掲げており、全校生徒の笑いが絶えない明るい学校です。

私は生徒会執行部に所属しており、行事を企画、運営をする側で大変なことも多くありましたが、協力しあった仲間と充実した3年間を送ることができました。高校での経験を活かし、大学生活も頑張っていきたいです。

商学部商学科
市場創造コース1年
田原　和 さん

北海道室蘭東翔高等学校
北海道室蘭市高砂町4-35-1
創立：平成18年
TEL：(0143)44-4783

伝統を受け継ぎ、都市型の総合学科としてスタート

平成18年4月に胆振管内初の総合学科高校としてスタート。母体となった室蘭東高校と室蘭商業高校の伝統を受け継ぎながら、都市型の総合学科として、地域の期待に応えられる学校づくりを目指している。校訓は、純粋な真心をもち誠実に行動し、生き生きと明るい気持ちで毎日を生きる「至誠・日々新」。

02 北海道 函館水産高等学校

私が卒業した函館水産高校は、1935年（昭和10）に設立された創立80年以上の伝統ある高校です。「海洋技術科」、「水産食品科」、「品質管理流通科」、「機関工学科」の4つの学科があります。私の学科は水産食品科で、製造から販売までの一貫を学び、大手メーカーのほとんどが導入している食品の安全管理システム「HACCP」の資格を取得することができます。

品質管理流通科は、食の安全・安心について総合的に学び、食品業界を中心に幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的としています。また機関工学科は、種々の機関を陸上でメンテナンスするスペシャリストと船のエンジンを運転・管理するスペシャリスト育成を目指しています。函館水産高校は、「職人」の心を学べる素晴らしい学校でした。函館大学では、更に知識を学び、成長していきたいと思います。

商学部商学科
企業経営コース3年
南　龍治 さん

北海道函館水産高等学校
北海道北斗市七重浜2-15-3
創立：昭和10年
TEL：(0138)49-2412

社会の発展に貢献する職業人を育成

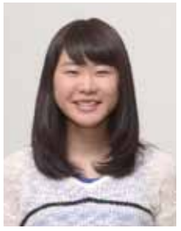
「堅忍不抜の気魄」「進取力行の態度」「礼譲親和の気風」「勤労愛好の精神」の4つを掲げ、水産・海洋に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、実際的・体験的な学習を通して、望ましい勤労観・職業観を育て、各科の目標の達成に努めさせている。

03 青森県 田名部高等学校

私の出身校の田名部高校は、青森県むつ市に所在する県立高校です。1917年、町立田名部女子実業補習学校として開校し、1949年に青森県立田名部高等学校となりました。自律・協和・純正を校訓にし、2016年に創立100周年を迎えました。100周年を祝う行事ではスキージャンプオリンピック銀メダリストの葛西紀明さんを招き、盛大に祝うことができました。

文武両道をスローガンとし、勉学だけでなく部活動にも力を入れており、昨年はボート部、フェンシング部がインターハイに出場しました。

私にとって田名部高校で過ごした3年間は、文武両道ということで辛い時もありましたが、支えてくれる先生、仲間がいてとても充実した学校生活でした。田名部高校で学んだ文武両道がこれからの大学生活に活かせると確信しています。



商学部商学科
英語国際コース1年
杉山　榛梨 さん

青森県立田名部高等学校

青森県むつ市海老川町6-18

創立：大正6年
TEL：(0175)22-1184

知・徳・体のバランスのとれた人材育成を目指す

校名の改称や統合等の変遷を経て、現在は全日制普通科・英語科と定時制を併せ持つ。平成28年に創立100周年を迎えた。校訓「自律・協和・純正」を人生の理想と掲げ、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成するために、教職員一同で生徒の全人教育に邁進している。

04 青森県 弘前東高等学校

私の出身校である弘前東高校は、昭和32年に弘前高等電波学校として設立され、今年で創立60周年を迎えます。「自主・責任・協力・健康」を教育目標に掲げ、約600人の生徒が勉学に励んでいます。元々男子校だったため、比較的男子生徒が多く在学していますが、最近では女子生徒も多くみられます。

弘前市内では珍しく、工業科（電子科・情報科・自動車科）と普通科の4つの科が設置されています。さまざまな資格を取得したり、部活動も積極的に取り組んでいます。硬式野球部は昨年の秋季大会で東北大会に出場し、ボクシング部はインターハイに出場するなど、好成績をおさめています。

弘前東高校の先生は、生徒一人ひとりをよく見て支えてくれるので、とても安心して学校生活を過ごせました。その先生方への感謝の恩返しとして、4年間の函館大学生活を満喫し頑張りたいと思います。

商学部商学科
企業経営コース1年
相馬　那々香 さん

弘前東高等学校

青森県弘前市川先4-4-1

創立：昭和32年
TEL：(0172)27-6487

将来の根幹となる、さまざまな力を養う

「人間尊重の精神に徹し、教師と生徒は啐啄同時、ともにより豊かな人間性と個性の進展に努める。」を教育方針に、「自主（自主的な学習と生活態度を養う。）」「責任（勤労と責任を重んずる態度を養う。）」「協力（協力して社会生活を営む態度を養う。）」「健康（心身の健康な発達を計る。）」を教育目標に掲げている。

05 岩手県 盛岡商業高等学校

私の出身校である盛岡商業高校は、岩手県盛岡市に所在する公立高校で、サッカー部が全国優勝したこともあるサッカーの強豪校です。2013年に創立100周年を迎えました。流通ビジネス科、会計ビジネス科、情報ビジネス科の3コースあり、検定取得にも力を入れている高校です。私は会計ビジネス科でしたので、簿記会計を学びました。

また、部活動は軟式庭球部に所属し、先生方の懇切丁寧な指導のおかげで多くのことを学び、人としても成長できたと思います。これからも盛岡商業高校で学んだことを忘れず大学生活を送っていきたいと思います。

商学部商学科
企業経営コース1年
佐藤　達弥 さん

岩手県立盛岡商業高等学校

岩手県盛岡市本宮2-35-1

創立：大正2年
TEL：(019)636-1026

武士の魂と商人の才能を持って社会に貢献

校訓は「至誠」「協同」「自立」で、その根本精神に脈々と受け継がれている「士魂商才」という校是がある。生徒一人ひとりの個性の伸長を図り、国際的な視野にたって創造性を思考し、主体的に行動できる、心身ともに健全な人間の育成を教育目標に掲げている。

06 栃木県 宇都宮短期大学附属高等学校

私の出身校は、1900年（明治33）に須賀学園として創立され、1968年（昭和43）に現在の宇都宮短期大学附属高等学校に校名変更しました。学科は普通科・情報商業科・生活教養科・調理科・音楽科の5つの科を有する総合学校です。生徒数も約3,000人と多いため、運動会では3年に1度、県の総合運動公園のグラウンドで行い、合唱コンクールは学年ごと、修学旅行はクラスごとで日にちを分けて行います。

どの学科も本格的なことを学ぶことができ、進学・就職後に活かすことができます。私は高校で学び、経験したことを今後の大学生活、そして就職後に活かして頑張っていきたいと思います。

商学部商学科
企業経営コース1年
岡　達也 さん

宇都宮短期大学附属高等学校

栃木県宇都宮市睦町1-35

創立：明治33年
TEL：(028)634-4161

生徒の資質を生かす多彩な進路に対応

生徒一人ひとりの個性を精一杯伸ばし、それを磨いていく教育を目指している。生徒の資質を生かす多彩な進路に対応し、特色と専門性あふれる5つの学科を設置している。大学で言うならカレッジではなくユニバーシティー、「総合高校」として独自性を発揮している。

07 埼玉県 川口市立川口高等学校

私の出身校である川口市立川口高校は1956年に埼玉県川口商業高校として開校し、1965年に普通科設置に伴い現在の校名に変わりました。設置学科は普通科と国際ビジネス科があり、普通科は国公立大や難関私大への進学が多く、私が入った国際ビジネス科は簿記やパソコンの検定取得、中国語などを学ぶことができます。また、国際ビジネス科では3年の夏休みに7日間アメリカ西海岸へ海外研修に行きます。

部活動は非常に盛んで、ダンス部と吹奏楽部は学校の内外で活躍しています。私の所属していた野球部はプロ野球選手を輩出しており、レベルも高く、濃い高校野球生活を送ることができました。

市立川口高校は、平成30年に統合されて無くなってしまいますが、市高で教わったことを生かし、函館大学でも勉学やクラブ活動に励みます。

商学部商学科
市場創造コース1年
武田　絢介 さん

埼玉県川口市立川口高等学校

埼玉県川口市朝日5-9-18

創立：昭和31年
TEL：(048)224-2211

明確な基本理念に基づいた教育内容・教育課程

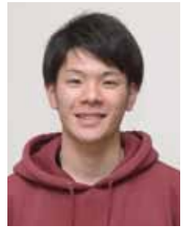
平成16年度より全学年において少人数指導を行っている。厳選した教育内容・教育課程で「確かな学力」はもちろん、自分で考え・判断し・問題解決できる「生きる力」を育て、国際ビジネス科は資格を生かした進路実現に加え、大学（商学系）進学に対応した編成、普通科は大学進学に照準を合わせた編成を行っている。

08 福岡県 九州産業大学付属九州産業高等学校

私の出身校である九州産業大学付属九州産業高校は、福岡県筑紫野市に所在する私立高校で、全校生徒2,400人を超えるマンモス校であり、教員の人数も約100人います。

コースは大きく分けて4つあり、スーパー特進クラスは難関国立大学合格を目標としたクラス、特進クラスは国立大学、有名私立大学を目標としたクラス、進学コースは四年制大学、短期大学への現役合格100%を目指すクラス、機械科は九州トップクラスの資格取得実績を誇り、幅広い業界からの求人実績があり、また、進学希望者への補習を実施し一人ひとりの夢を実現するクラス。

どのコースでも自分の夢に少しでも近づけるよう、先生方も親身になって相談に乗ってくれ、アドバイスなどをしてくれます。私も函館大学に進学して、自分の夢に向かって頑張っています。



商学部商学科
企業経営コース2年
古崎　宏樹 さん

九州産業大学付属九州産業高等学校

福岡県筑紫野市紫2-5-1

創立：昭和42年
TEL：(092)923-3030

信頼される「確かな学園」を目指して

建学以来、一貫して「専門家である前に、先ず人であれ」の教育理念のもと、生徒一人ひとりの個性と人格を尊重し、豊かな人間性の育成を教育の柱に据えてきた。校是に掲げる「卓然自立」（「卓然タル自立ノ精神」）の修養に努めるとともに、さまざまな学校改革も進めている。

日本語や専攻科目を学ぶため、中国・南開大学浜海学院から函大へ留学

函館大学では海外の大学と姉妹校提携し、本学の学生の海外留学を積極的に推進するとともに、姉妹校からの留学生を受け入れています。今年度は中国・南開大学浜海学院から6名の留学生を受け入れ、彼らは将来の目標に向かって本学で2年間学びます。

FROM THE WORLD

日本語の上達、そして文化も学びたい

Q.何故、函館大学に留学しようと思ったのですか?

閻 昕玥
(エン キンゲツ)さん

閻さん「小さい頃から日本のアニメや小説が好きだったんです。アニメは『ナルト』や『ワンピース』、小説では『人間失格』とか。また、日本の文化や歴史、そして日本語をもっと勉強したくて留学しにきました。日本のお祭りなどを自分の目で見て、体験もしてみたいです」

王さん「私は留学する前に母と一緒に日本へ旅行に来て、東京や京都、大阪、奈良に行ったのですが、日本の環境が気に入りました。そして、日本語、さらには経済学などを勉強したいと思って留学を決めました」

劉 子敬
(リュウ シケイ)さん

劉さん「僕は日本人の友達を作りたいと思ったから。あと、みんなと同じく、日本の文化や社会に興味を持っていたんです。日本の生活習慣は中国とは全然違う。例えば、車のドライバーは歩行者を先に行かせてから走るとか(笑)。だから、もっと日本のことを知りたくて」

張さん「僕は経営学に興味があって。日本語だけでなく、経営学のことをもっと学ぶことができたら、就職に有利になると思って函館大学へ来ました」

羅 可
(ラ カ)さん

羅さん「私は閻さんと同じで、日本のアニメに興味を持っていたんです。小さい頃は『名探偵コナン』や『テニスの王子様』、ほかには『夏目友人帳』も好き。日本語をもっと話せるようになりたいと思って留学を決めました」

祝さん「私は日本の大学院に進学したいんです。そのステップとして函館大学で学びたいと思いました」

意志を尊重し、頑張れと応援してくれました

Q.留学を決めた時、ご両親の反応はどうでしたか?

祝さん「応援するから頑張って、と言われました。そして、私が大学院へ行くことも希望していました」

羅さん「私の両親も応援すると言ってくれましたが、同時に心配もしていましたね。以上です(笑)」

張さん「僕の場合、留学したいと言ったら、早く行きなさいと言われました。両親は前から僕を留学させたいと思っていたから、お互いの考えが一致していましたね。こちらへ来てから1カ月に1回ぐらい連絡しているけど、両親はそんなに寂しそうじゃない。僕は寂しいんだけど(笑)」

劉さん「僕の母は、君が望むなら行きなさいと言ってくれました。でも、体のことを心配していたので、体には気をつけてねって」

王さん「私の両親は、遠いから心配だと、最初は反対していました。そこで、どうしても行きたいという気持ちをぶつけたら、その気持ちを尊重してくれたんです」

王 逸然
(オウ イツゼン)さん

閻さん「私の両親も王さんと同じく心配だと言いましたが、私の意志を尊重して留学を認めてくれました。だから、頑張って勉強しないと」

ゼミはディスカッションできるのがいい

Q.どんな授業を受けているの?また、好きな授業は何ですか?

閻さん「高橋先生の貿易のゼミナールが好きです。貿易の仕事に興味があるから勉強になります。それに、高橋先生は優しいので」

王さん「高橋先生の授業は面白いし、内容が理解しやすいよね。貿易のゼミナール、国際マーケティング論が好きです。貿易や経営の仕事をしたいと思っているので、経営学も受講しています」

劉さん「僕は寺田先生の授業を受けていて、ゼミも寺田先生。好きな授業は原書講読ですね。日本語の理解力などが向上するので」

張さん「僕も寺田先生の授業を受けていて、経営史と産業構造論が好き。国によって経済発展の仕方や得意な経済が違い、それを知るのが面白いですね」

羅さん「私も王さんたちと同じで、高橋先生は面白いし、話す日本語が分かりやすい。商法はちょっと難しいけど、藤原先生は中国語が話せます。そして、ゼミは他の学生たちとディスカッションできるところがいいですね。角田先生は日本語を話すのが早い(笑)」

祝 琳
(シュク リン)さん

祝さん「私は元々、英語が好きなのでビジネス英語の授業が好き。高橋先生は英語がペラペラで、ビジネスマナーなども学ぶことができるから、将来に役立ちます」

イベントも多くて楽しい大学生活

Q.函館の街や人々の印象は?

閻さん「空が青くて、空気が新鮮。あと、カラスが多いこと、大きさにもビックリしました。函館の人たちはみんなとても親切ですね」

張 陸洋
(チョウ リクヨウ)さん

王さん「函館はとても寒いです。中国は5月になるとTシャツを着ているけど、こっちでは暖房を使いました。それと、街に人が少ないという印象ですね」

劉さん「函館は静かな街ですね。夜7時頃になると、僕が住んでいる寮の辺りは人がいません。函館大学の学生たちは好奇心が強い印象を受けました。食堂などで中国語で話していると、みんなこっちを見るんです」

張さん「函館大学の学生は、みんないい人ばかりだよね。とても親切だし、元気いっぱい。友達もできました」

羅さん「野球部の人が多いよね。あと、学校のイベントが多いから楽しみ」

祝さん「新入生歓迎イベントのボウリングが楽しかったから、他のイベントもいろいろ参加したいな」

学んだことが生かせる仕事を

Q.最後に、卒業後の目標や将来の夢を教えてください

祝さん「大学院に進学したいです。その後は中国に戻って日系企業で働き、海外を相手に貿易関係の仕事がしたいと思っています」

羅さん「私も大学院に進学したいと思っていて、日本で就職したいです。中国と日本の貿易に関わる仕事をしたいと思っているのですが、中国へ戻って日本語学校などで日本語の教師になることも考えています」

張さん「大学院に進学したいのは僕も同じで、中国へ戻って旅行開発などサービス業の仕事がしたい。そして35歳くらいになったら、子どもの頃からの夢だった喫茶店をやりたい」

劉さん「僕は大学院に進学するかどうかはまだ決めていません。でも、できれば日本で就職して、ビジネスマンになりたい。または、多分難しいと思うけど、中国語の教師をやりたいとも考えています」

王さん「私も大学院に。寒いのは苦手だけど、雪が好きだから、できれば北海道大学の大学院でいろんなことを学んで、やりたいことを見つけていきたいです」

閻さん「私は、美味しい食べ物がいっぱいある大阪の大学院へ行きたい(笑)。どんな仕事をするかはまだ決めていないけど、中国に戻って就職したいですね」

留学の目的や函館大学での学び、さらには函館の街や人々の印象など、飾ることなく語ってくれた6名の留学生たち。本学の学生たちとともに、将来の夢や目標に向かって進んでいきます。

チームプレーを武器に全国の強豪チームに挑む函大ハンドボール部。

CLUB TOPICS

KANDAI ing

内外に函大の元気を発信します!

クラブ活動は学びと成長の場
体育系、文化系とも、情熱を持って
仲間とクラブ活動に打ち込む

ハンドボール部 HANDBALL

すべてが揃わなければ、うまくプレーできないところが魅力

西山 龍也さん
商学部商学科市場創造コース4年
(学校法人石川高等学校出身)
「自分が率先して取り組む姿勢を見せて、みんなを引っ張っていきたい」。

地域のクラブチームに所属した小学3年生からハンドボールを始め、「走って、跳んで、投げる(シュート)、このすべてが揃わなければ、うまくプレーできないのがハンドボールの魅力です」と話す西山 龍也さん(4年生)。西山さんの出身高校(学校法人石川高等学校)の先輩方が数多く函大ハンドボール部で活躍してきたことから、その背中を追いかけて進学してきました。

同部のスローガンは"一束いくら"。伝統であるこのスローガンを胸に、個々の能力だけでは補えないところをチーム全体で補いながら戦っていきます。1年生から試合に出場しているキャプテンの西山さんは、その先頭に立ち、「チームに貢献するために何をするか考え、練習でやってきたことをしっかり生かす、という気持ちで試合に臨んでいます」と、平常心を大切にしています。

夏の東日本インカレでは、全国の強豪校と対戦する同部。「一泡吹かせるぞ、という強い気持ちで戦い、全日本インカレの切符を手にしたいですね」と目標を掲げる西山さんは、卒業後はクラブチームなどでハンドボールを続けながら、人のためになる仕事がしたく、その夢に向かって、これからも全力疾走を続けます。

函館大学ハンドボール部HP http://kandaihand.jimdo.com

弁 論 部 DEBATING

言葉でうまく伝える力で、周りの人に差をつけよう

弁論大会は毎年12月、本学内で行っています。

小林 俊己さん
商学部商学科企業経営コース3年
(能代松陽高等学校出身)
「必ず将来の役に立つ部活動だと思うので、ぜひ入部してほしい」。

硬式野球部に所属しながら、同部の先輩に勧められたことをきっかけに弁論部でも活動している小林 俊己さん(3年生)。「その先輩は話す時もハキハキとしていて、人に思いを伝えることがとても上手だったんです。自分もそのようになれれば、就職活動やその後の人生にも生かせるかなと思い、1年生の春に入部しました」と振り返ります。

部活動は週1回、昼休みの時間を利用して行っており、スピーチの仕方だけではなく、呼吸法も練習します。「呼吸法は気持ちを落ち着かせたりするので、スピーチの時はもちろん、野球のプレーにもつながりました」。人前で話すことに少し抵抗はあったそうですが、今では抵抗感は薄れてきたそうで、効果を実感している様子。

また、弁論の原稿も自分で書くことから、文章力も身に付いていきます。「就職の面接や社会人になってからはプレゼンなど、話す機会がこれから増えてきます。後輩のみなさんには、ぜひこの部でそれを身に付けてほしいですね」と、しっかりアピール。硬式野球部でもこの秋は集大成となる小林さんは、両部で頂点を目指し、全力で取り組んでいきます。

硬式野球部 BASEBALL

周りの支えに感謝しながら、頑張って恩返しを

西谷 圭祐さん
商学部商学科企業経営コース4年
(北照高等学校出身)
「負けず嫌いなので、まず気持ちだけは負けないようにといつも思っています」。

兄がプレーしている姿を見てきたことから、「自分もやってみたい」と小学3年生から野球を始めた西谷 圭祐さん(4年生)。小・中学生の時はピッチャー、キャッチャー、サードのポジションをこなし、北照高等学校では内野一本で春・夏の甲子園、秋の神宮大会にも出場したそうです。「野球の魅力は、例えば送球ミスをしても味方が捕球してくれるなど、カバーし合えるスポーツだから」と話します。

昨年秋からキャプテンを務めている西谷さん。「キャプテンになる前は自分のことだけに集中してきましたが、今は自分のことは第ニに、チームや周りのことを第一に考えています」と、自覚を持ってチームをまとめ、全体練習前に自主練に取り組み、全体練習では周りに目を配ります。そして、西谷さんは野球を続ける中で、周囲の人々に感謝する気持ちも学んだそうです。「今、野球を続けていられるのは両親や指導者、仲間たちのおかげです。みなさんの支えに感謝しながら、恩返しをしていきたいですね」。内野のユーティリティープレーヤーとして活躍する西谷さんは、上のステージへ進むことを目標にして、大学最後の秋に臨みます。

函館大学硬式野球部HP http://kandai-bbc.jimdo.com

コミュニケーションをとりながら、チーム一丸となって戦う函大硬式野球部。

軟式庭球部 SOFT TENNIS

文武両道を目指し、人間性も育む

若山 静哉さん
商学部商学科企業経営コース1年
(八戸工業大学第一高等学校出身)
「これから少しずつ結果を出していき、全国大会に出たい」。

山田 真菜さん
商学部商学科企業経営コース1年
(八戸商業高等学校出身)
「高校では結果を残せなかったので、大学では精一杯頑張りたい」。

今春、大学生となって新生活をスタートさせた函大軟式庭球部の若山 静哉さん(1年生)と山田 真菜さん(1年生)。大学での部活について、若山さんは「自分で考えて練習をしていくスタイルは、とてもいいことだと思う」と話し、山田さんは「硬式のボールを使ってみたり、これまでやったことのない練習があるので楽しい」と目を輝かせます。

また、先輩や監督の印象を聞いてみると、「先輩はみなさん優しく、監督はテニスのことだけではなく、学校のことも分かりやすく教えてくれます」と若山さん。一方の山田さんも、「監督は楽しむ時はしっかり楽しむ、でも、駄目な時は厳しくと、メリハリをつけて指導してくれます。また、社会人に必要なことも教えてくれます」とのこと。そんな二人は、実は保育園に通っていた頃からの幼馴染み。小学6年生の時にお互いに転校し、高校も別々の学校へ進学したのですが、何と高校の大会で5年振りとなる運命の再会を…。「若山くんが表彰されているのを見て気付きました」と山田さんは笑います。文武両道を目指し、部活では互いに自分のテニスのレベルを上げ、結果を出していきたいと抱負を語ってくれました。今後の展開が気になるお二人です。

先輩と後輩の仲の良さが印象的な函大軟式庭球部。

函館大学軟式庭球部HP http://kandai-nantei.jimdo.com

CAMPUS REPORT

キャンパスリポート

夢や目標に向かい、楽しく、充実したキャンパスライフを送る函大生の「いま」をお届けします。

留学は語学の上達だけではなく、国際的な感覚を養うこともできます。

春季派遣留学

留学の経験を生かし、将来は海外勤務を

英語が好きだったこと、そして留学制度が充実していることから本学の英語国際コースに進学した石村　南海子さん（4年生）。留学を考えるきっかけは、高校の修学旅行でした。「アメリカへ行ったのですが、ご飯が美味しくて。また海外へ行きたいと思いました」と、笑いながら話してくれましたが、当時は英語での会話がほとんどできなかったことから、「もっと話せるように勉強したい」と強く思ったそうです。留学を決断した時は、お金のことを心配していた両親に対して、プレゼンを行って説得したとのこと。

留学先のオーストラリアでは、語学学校で他県や他国からの留学生たちとともに楽しく学びました。「田舎にあるのですが、広大な敷地に医療施設や銀行、カフェなどがあり、圧倒されました」。また、ホームステイ先での生活も最初はとまどいがあったものの、これまで韓国、中国、ベトナムなどへ行ってきた度胸や決断力を発揮して、徐々にホストファミリーにも溶け込んでいったそうです。

そして友達をたくさん作れたことも大きな財産となりました。「語学の上達だけでなく、さまざまな国の文化や風習などを学んだこともいい経験になりました」と、瞳を輝かせる石村さんは、将来、海外で活躍する夢を持ち、海外勤務のチャンスがある企業への就職を希望しています。「英語が完璧に話せなくても友達はできるし、買い物もできて生きていける。それよりも、自分がどうしたいか、さらにどのように行動を起こすかが大事だと思うので、それを後輩たちに伝えていきたいですね」。

「みんなで動物園へ行った時、新たなコミュニケーションが生まれたのも良かった」と話す石村 南海子さん。商学部商学科英語国際コース4年（青森山田高等学校出身）

アジアマーケティング研修会

海外へ目を向ける学生を育成

シンガポールでは企業や語学学校を訪問し、調査・研究を行いました。

実践的な教育プランのひとつとして、本学で2年前から取り組んでいる「アジアマーケティング研修会」プログラム。

第1弾では函館スイーツの海外展開の可能性を調査し、昨年度からスタートした第2弾では、その結果を受け、海外進出の方法を調査・研究しました。「今回はシンガポールへ行き、企業さんに商品や市場に関するお話を聞いたり、物産展を視察したほか、現地の語学学校でアンケート調査も実施しました」と話すのは、三ツ谷 美帆さん（3年生）。海外へ行くことができること、そしてスイーツ店でバイトしていることからスイーツに興味があり、マーケティングの学びにもなると考えて参加を決めました。

先生やチームの仲間の意見を聞くことにより、視野が広がったという三ツ谷さん。苦労もあったが、時間をかけ、みんなと一緒に頑張ったからこそ達成感も一段と大きくなったそう。「相手に気持ちを伝えるために、どう話すかなど、それまでに比べて少しは成長できたかなと思います」。

調査・研究の結果をまとめ、企業や業界に向けた提案を行う発表会を実施して一区切りをつけた今回の同研修会。チャレンジすることの大切さを実感しながら、海外へ目を向けた学生たちを育成していくため、今後も更なるステップを目指して取り組んでいきます。

「研修会を通して、英語も勉強したいと思いましたし、将来はマーケティング関連の仕事がしたい」と話す三ツ谷美帆さん。商学部商学科市場創造コース3年（函館稜北高等学校出身）

海洋観光大学東日本教育旅行研究大会

函大生のプランが最優秀賞を受賞

シーピーポーのメンバーたち。

You Tube動画

「子どもと青函の海」をテーマに、大学生が旅行プランを考えて発表した「海洋観光大学東日本教育旅行研究大会」において、本学のチーム“シーピーポー”のプランが最優秀賞に輝きました。5名でチームを組み、チームリーダーとしてみんなを引っ張った照井　和樹さん（4年生）は、「プランを作成する中で現地視察へ行き、自分の目で見て、肌で感じることは大切だと実感しました」と振り返ります。

逢坂　優花さん（2年生）は、「悩んだこともたくさんあったけど、みんなの頑張りが最優秀賞という形で表れたので、結果、楽しかったですね」とのこと。そして鈴木　里彩さん（2年生）は、「私たちの企画は、これから商品化されることになるのですが、そんな機会はなかなかありません。とてもいい経験になりました」と話します。

逢坂 優花さん
商学部商学科英語国際コース2年
（青森明の星高等学校出身）

照井 和樹さん
商学部商学科英語国際コース4年
（函館大学付属有斗高等学校出身）

一方、照井さんとともに後輩を支えてきた吉原　健斗さん（4年生）は、「メンバーはたまたま函館と青森の出身者だったことも良かったのかも。自分たちの意見を先生に思いっきり言えたし、先生もそれに対して熱心に応えてくれました」と、最後に感想をまとめてくれました。

鈴木 里彩さん
商学部商学科企業経営コース2年
（函館商業高等学校出身）

吉原 健斗さん
商学部商学科企業経営コース4年
（七飯高等学校出身）

自分たちで企業へ連絡して話を聞いたり、大勢の前で発表したりと、この大会を通して社会人となるためのスキルアップにつながりました。

新聞を授業で活用

情報の活用力を身につける

平成28年度入学生から、函館大学では商学5分野（法律、経済、会計、流通、経営）をよく理解してもらうために入学前課題（大学合格時から入学時までの期間）および1年次の専門分野で新聞を読みスクラップブックを作成し、担当教員の指導のもとビジネススキル、情報分析力向上、倫理観を養うことを目的として学習しています。

このスクラップブック作成は1年生全員が新聞購読（学習教材として大学が費用を負担）をし、新聞の記事をスクラップして授業に臨み、新聞記事のコメントや疑問点を授業の中で発表させ、授業担当教員がニュースの解説をしつつ、偏りがちな新聞記事に批判的思考力をどう働かせるかを見せていくことを実施しています。

1年次オリエンテーションでは「新聞の読み方」を新聞社の方から直接指導を受けます。

このことで学生と教員との共通の話題や疑問点など学習向上のコミュニケーションが生まれ、社会への興味を持たせます。

昨今ではインターネットが普及しインターネットで手軽にニュースを読むことが多くなっていますが、新聞を手にとってじっくり読むこともよい経験になっているようです。

平成29年度の公開講座

教養講座・授業公開講座のほか、函館新聞紙上公開講座も

公開講座実施委員会 委員長
准教授　大橋 美幸

教養講座は春期2講座、秋期2講座です。春期に英語のリスニング上達術として、ネイティブの単語のつながり、弱く発音される単語の聞き取り、聞きとるための基本的な英文法を学びました。合わせて、東南アジアへの日本企業の進出について体験談を交えた話を聞きました。秋期は、地域ブランド、電気自動車の話です。どなたでも参加していただけます。

通常の大学授業を市民に無料で公開している授業公開講座は3科目です。「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」はこれまで全く簿記を学んだことがない人が対象です。商業簿記を中心に複式簿記の基本的仕組みを学びます。「社会学」は大学生のための社会学入門です。毎回、グループで最近の社会的課題について話し合います。「社会福祉論」は大学サテライトの夏期集中で、少子高齢社会の現状と課題、支える制度を学びます。

また、函館新聞で毎月第1金曜日に「函館大学講座」を連載しております。1月から6月は「国際化」でした。7月から12月は「環境」です。法学、国際経済学、産業構造論等の観点から、教員がリレーで執筆しています。

教養講座

《春期》
- 第1回　5月20日(土)10:00～12:00
  「リスニング上達術」　講師:阿部 ジョスリン
- 第2回　6月3日(土)10:00～12:00
  「東南アジア諸国における日本企業の役割と今後の展開
  ～海外ビジネスよもやま話～」　講師:高橋 伸二

《秋期》
- 第1回　11月18日(土)10:00～12:00
  「地域ブランドを売る　～草の根マーケティングの考え方～」
  講師:角田 美知江
- 第2回　12月2日(土)10:00～12:00
  「電気自動車の普及と課題　―ユーザーの視点から―」
  講師:若松 裕之

授業公開講座

- 「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」4月14日(金)～1月30日(火)
  前半金曜・後半火曜／9:00～10:30(全30回)　講師:片山 郁夫
- 「社会福祉論」9月14日(木)～17日(日)
  9:00～16:20(全16回)　講師:大橋 美幸
- 「社会学」9月25日(月)～1月22日(月)
  14:50～16:20(全12回)　講師:大橋 美幸

函館新聞紙上公開講座

- 毎月第1金曜日に函館新聞の紙面で連載しています。
  7月～12月はシリーズ「環境」

平成28年度 学校法人野又学園 決算書

(単位:千円)

資金収支計算書
(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

資金収入の部 科目	金額	資金支出の部 科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,244,321	人件費支出	1,510,049
手数料収入	28,037	教育研究経費支出	543,072
寄付金収入	11,180	管理経費支出	195,521
補助金収入	878,201	借入金等利息支出	1,845
国庫補助金収入	311,509	借入金等返済支出	54,264
地方公共団体補助金収入	507,977	施設関係支出	3,287
施設型給付費収入	56,951	設備関係支出	53,911
その他の補助金収入	1,764	資産運用支出	221,109
資産売却収入	104	その他の支出	78,802
付随事業・収益事業収入	108,478	(予備費)	
受取利息・配当金収入	61,933	資金支出調整勘定	△178,842
雑収入	167,793	翌年度繰越支払資金	315,387
借入金等収入	0		
前受金収入	265,617		
その他の収入	131,789		
資金収入調整勘定	△433,356		
前年度繰越支払資金	334,308		
資金収入の部合計	2,798,405	資金支出の部合計	2,798,405

事業活動収支計算書
(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

		科目	金額
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	1,244,321
		手数料	28,037
		寄付金	11,180
		経常費等補助金	867,320
		国庫補助金	300,785
		地方公共団体補助金	507,820
		施設型給付費	56,951
		その他の補助金	1,764
		付随事業収入	81,733
		雑収入	168,352
		教育活動収入計	2,400,943
	支出の部	人件費	1,501,069
		教育研究経費	766,776
		管理経費	248,036
		徴収不能額等	1,307
		教育活動支出計	2,517,188
	教育活動収支差額		△116,245
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	61,933
		その他の教育活動外収入	26,744
		教育活動外収入計	88,677
	支出の部	借入金等利息	1,845
		教育活動外支出計	1,845
	教育活動外収支差額		86,832
経常収支差額			△29,413
特別収支	収入の部	その他の特別収入	72,512
		特別収入計	72,512
	支出の部	資産処分差額	2,728
		その他の特別支出	20,684
		特別支出計	23,412
	特別収支差額		49,100
予備費			
基本金組入前当年度収支差額			19,687
基本金組入額合計			△91,470
当年度収支差額			△71,783
前年度繰越収支差額			△115,996
基本金取崩額			19,938
翌年度繰越収支差額			△167,841
(参考)			
事業活動収入計			2,562,132
事業活動支出計			2,542,445

貸借対照表
(平成29年3月31日現在)

資産の部 科目	金額	負債の部 科目	金額
固定資産	15,267,866	固定負債	534,373
有形固定資産	8,987,048	流動負債	477,242
特定資産	5,228,784	負債の部合計	1,011,615
その他の固定資産	1,052,034	**純資産の部 科目**	**金額**
流動資産	547,389	基本金	14,971,481
		繰越収支差額	△167,841
		純資産の部合計	14,803,640
資産の部合計	15,815,255	負債及び純資産の部合計	15,815,255

授業アラカルト

『流通論』

専任講師 **角田 美知江** 先生

企業で働きながら大学に入り直し、大学院まで進んだ角田 美知江先生は、函館大学の教壇に立って3年目を迎えました。企業で培ったキャリアも活かし、マーケティング関連の講義を担当するとともに、商学実習や各種プロジェクトでも学生の指導に当たります。

「会社員だった経験も活かしながら、学生とともに課題を考えていきたい」と話す角田先生。

自らが課題を持ち、様々な事例から解決法を考えていく講義を。

マーケティング関連科目を担当していますが、専門は消費者行動論です。消費者行動とは、簡単に言うと、消費者が何を、いつ、何のために、どこで、どのように、いくらで買うのかを様々な角度から考えていく学問です。

一方、流通論は、システマティックな学問であり、流通の世界は皆さんがいま理解しているよりもはるかに多くの複雑で興味深い側面をもっています。流通は、マーケティング分野でも重要視されてきました。流通といえば、モノを運ぶ物流というイメージと思われがちですが、生産から消費までの一連の活動を指すので、物流と少し意味合いが違います。流通論では、モノを運ぶことを物的流通といいますが、生産物の生産者から消費者までの移動あるいはその移動を行う輸送システムを指します。包装・輸送・配送・保管・荷役・情報管理・流通加工などの活動を包括しています。

流通を学ぶことは、生産から消費までの一連の活動とそこにかかわる商品、企業、消費者、そして、法制度などのシステムの関係性を知ることでもあります。現在注目されているロジスティクスの概念もその1つです。

また、日々発展をとげるコンピュータ・ネットワークの技術を駆使し、データ的裏付けのもと、流通過程の一部のみの効率化にとらわれずに、また、直接的な費用削減のみに目を奪われずに、最適化を図るシステムとも言えます。

私が担当する講義は、学生の皆さんが、自ら課題を持ち、数々の事例から解決法を考えていくことを目標としています。変化する状況に、対応するためにもたくさんの企業の事例を学ぶことで、自らの知識の引き出しに収納し、整理し、必要な時に取り出せるようにしてもらいたいと思っています。私は、会社員として長い間、工場管理や品質管理、商品開発にかかわってきました。これらの経験を活かし、皆さんとともに課題を考えていくことを心掛けています。

授業では、パワーポイントを中心に進めていきますが、企業での経験や事例などを織り込んでいければと思っています。また、学生の皆さんにはいくつかの課題について考え、意見を述べてもらうことを目指しています。新聞記事から企業のことを考え、自分の未来を考えるということもしていきたいと思っています。

また、昨年、そして今年とアジアマーケティング研修会の指導教員として、学生とともに香港やシンガポールに調査に行きました。地域企業の国際化をテーマに、海外展開の可能性や方法について考え、まとめ、発表しています。学生時代に海外を経験し、何かを得るチャンスをつかみ、学生の皆さんの未来が輝くことを楽しみにしています。

学生たちは知識の引き出しに収納、整理、必要時に取り出せる力を養っていきます。